

第3章 善い牧者

幼児から初聖体までの子供たちをミサへ導く方法から更にミサの意味を教える準備へ進みましょう。

イエスさまの人間性を通して、最もすばらしい姿は、ヨハネ十章に示された善い牧者のたとえばなしの中に見ることが出来ます。

このたとえばなしを子供たちに基礎的にしっかりと教えます。

イエスさまは良き牧者の姿を通して、羊たちを守り、導くたとえを私たちの信仰生活へと関係づけます。又このたとえのなかに示される沢山の要素は洗礼においても現わされます。

初聖体までの年齢の子供たちには守護するという観点でこのたとえばなしを提供します。

それ以上の年齢になったら、自分の羊たちのために自分の生命を与えても守るという牧者の犠牲という観点をはっきりと示していきます。

更に生命を与え、沢山の羊たちの生命を守るという観点では、死といのちの意味に関して、復活の神秘についてふれます。

十歳前後の年齢からは、良き牧者キリストの道を歩み、キリストに従うという教えを示し、そして苦しみ、死、復活のキリストへと導きます。たとえばなしは、イエスさまが弟子たちに教えるための普通の方法でした。したがってたとえばなしの中に真理がかくされているという点で教育的価値は大きいのです。

それをさがすために、私たちは祈り、黙想するのです。

たとえばなしの提供には、二つの要素がみられます。

- (1) ただ受動的に聞くだけ (2) 積極的にあらわす

○ 年令 3歳～初聖体

○ テキスト ヨハネ 十章

○ 教材 カード 4枚 (20cm × 20cm)

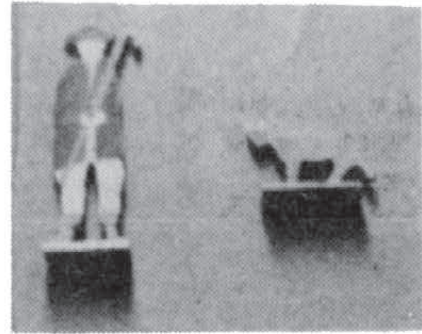
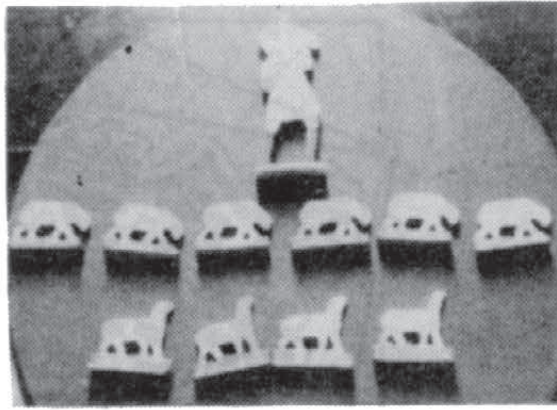
- ①羊をかついでいる善い牧者の像
- ②雇われた羊かい
- ③草をたべている羊
- ④上を向いている羊

羊たちの柵の模型 羊の型10びき

○ 教えの要点

ヨハネ・第十章の物語りを簡単に話します。聖書をそばに置いて、良い羊飼いが、羊たちに向かって愛をはっきり示しながら、羊たちをいつも守り、危険から防ぎ、導くこと、そして羊たちの名前を呼ぶことなどを強調します。

羊たちは善い牧者に従います。なぜなら善い牧者の声を知っていますから、知らない人の方へは行きません。



善い牧者はいつも羊たちの前に立って歩きます。善い道を選んで導きます。危険に対して(狼から)守ります。危険にあわないように注意ぶかく歩きます。

反対に雇われた羊飼いは自分の羊たちでないので危険にあうと羊たちを置いて逃げてしまいます。羊たちも雇われた羊飼いの声を知りません。善い牧者だけが羊たちを安全に柵へ導きます。

○教材の提供

このたとえばなしは、おはなしだけでなく、幼児が目で見ることが出来るように準備されなければなりません。(劇、紙芝居)、模型教材等。

何人かの子供たち(自分の子供)の名前を呼びます。そして模型教材の羊たちを柵の中におきます。(写具)そして善い牧者に従って一匹ずつ柵の外へ出します。狼が来ます。危険ですから善い牧者は羊たちを柵の中へ入れて守ります。

雇人の羊飼いと場面をとりかえます。自分だけが逃げて羊たちは柵の外で横にたおれます。最後に、もう一度善い牧者が、羊たちを柵の中へ導きます。

○作業

カードをうつす(3歳~初聖体)

聖書ヨハネ十章・3~5、11~15を書く(初聖体)

○ねらい

(直接) 善い牧者は羊たちを守り、導くために生命をかける姿をみつめさせます。

(間接) イエスさまは愛で私たちを守り、導いて下さいます。